

久瑠あさ美の
奇跡のビジョン

“気持ち”ひとつで 未来が動く



くる・あさみ

トップアスリートや経営者、ビジネス
パーソン向けに、個人メンタルトレー
ニングを行う傍ら、リーダー研修や講
演会など、活動は多岐にわたる

信じることで パフォーマンスを 引き出そう

「勘違いの才能」はあなたの潜在能力を引き出してくれます。

いわゆる天才にあつて凡人にな
いもの、それが勘違いの才能。

天才は「無い」ものを「在る」と
言います。たとえば、クライ

アントから「いま企画書ある？」
と、突然、振られた場合、たと

え準備された企画書がなかった
としても、「あります、いつ伺

いますか？」と答える。天才は、
まだ起きていなくとも、現実の
ものとして扱えるのです。

私は、メンタルトレーニング
の中で「今のあなたは100点
満点で何点ですか」という質問

を投げかけます。

「80点」と自信満々の人。「40点
です」と自信なさそうに答える

人、さまざまです。実は100
点満点で「40点」と答える人の

無意識は「マイナス60点」です。

「80点」の人も「マイナス20点」
という足りない何かを感じ取っ
ているのです。「あそこでミ

限界なんて意識しない 天才の思考回路

スしたから、マイナス20点だな」
などと通常は、自分のマイナス
点を探してしまうのです。

こうした思考法の真逆のどこ
ろに、自分のプラスを加算でき

る「天才」が居るのです。自分
の枠を飛び越えて、不可能を可

能にすることのできる人は、自
己評価の質問にこう答えます。

「120点ですかね」

こういう人が本当にいます。
これこそが、「勘違いの才能」
といつていいでしょう。

自己パフォーマンスを減点法
で捉えてしまつては限界を超

えることはできません。ところ
が、100点満点で100点を

超える自己評価ができる人は、
たやすく現実の枠を飛び越えて

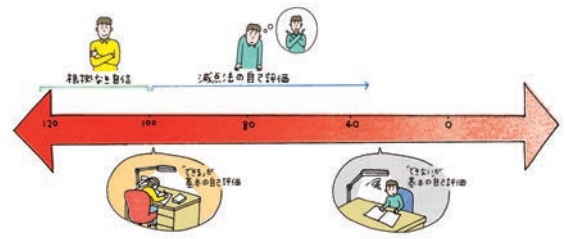
しまいます。凡人は100点の
枠を守った行動をしますが、

天才はこれを簡単に飛び
越えてしまう。チャ

レンジする前から、す
でに飛び越えた気にな

っているのです。

アスリートは、自分を信じた
いと考えます。けれど、信じら
れていない人が多いのも事実。



自分の“いま”を採点してみよう

100点というポイントに、平凡か非凡かの境がある。自分を加点法で採
点できるのか、減点法となってしまうのか。常に最高の自分を目指す

ゴルファーに例えると……

プレッシャーを
感じなければ
ゴルフは変わる!?

苦手なパー3のティシ
ョットは、さまざまなか
考えがよがる。

「1オンしないかも」と
考える人は、100点以
下の採点をする人。マイ

ナス20点の意識が、乗ら
ない可能性を引き出す。

100点をつける人は
「乗せなければ」と考え

る人。1オンしなければ
100点ではなくなるの

で、意識がマイナス方向
へと向かってしまう。

そしてシンプルに「乗
せたい」と信じる人こそ

が、120点の天才。そ
んな人には、パーティ、
ホールインワンといつ

た、さらなる高み待ち
構えているのである。

「信じたい」ではなく
120%「信じてみる」。
それが、未来の自分を
大きく飛躍させる

未来が
動く 今月の
ひとこと